

平成28年度 社会科教育にかかわる現状と課題

部長 岡 崎 登

1 社会科教育の動向

【上越地区】

上越地区では、上越市、妙高市、糸魚川市それぞれで市単位の授業研修会が実施された。上越市では、学び合いを通して思考を深める研究が行われた。学びの過程を「見える化」することで、自他の考えを比較・関連・共有する対話的な学びを目指していた。糸魚川市では、「実感に支えられ、自ら学ぶ社会科教育」をテーマに授業が行われ、話し合いを通して思考を深める研修が行われた。妙高市では地域素材の教材化に焦点をあて、追究意欲を育む学習過程の在り方の研修を行った。

【中越地区】

中越地区では、地域教材研修や教材づくりを積極的に行っている。長岡市三島郡では、地域巡検で「朝日酒造」の見学が行われ、柏崎市では市教育センターとの共催で「柏崎学」（文化財・文化施設めぐり）など、中越の各郡市で地域を学ぶ情報交換会や研修会が行われた。さらに、中学校教師による授業公開が行われるなど、中学校との授業交流も進められている。

【下越地区】

下越地区では、地域巡検・講演会等により、地域素材を教材化したり授業づくりを考えたりして社会科授業に生かせるように努めている。村上市では、「資料をもとに、自分の考えを表現する指導法の工夫」を研究主題に授業公開を通して研修を行った。五泉市では、近年の河川改修の現状と課題について、新津地域整備部河川整備課から講話を聞くなど災害に関する研修を行った。新発田・北蒲や胎内市では、資料活用と共に社会的な思考力の向上を目指した授業研究が行われた。

【新潟地区】

新潟市では、次期学習指導要領の改訂を見越して、地区別に「社会的事象を複数の立場から考え、社会とのかかわりを自覚する児童の育成」を研究主題に取り組んだ。児童の考える「立場」を明らかにしながら、単元・授業構成を行うことで、社会的事象を複数の立場からとらえ、深く理解することにつながった。

2 社会科教育の課題

- 次期学習指導要領の改訂で、社会科において育成が求められる資質・能力について研修していく必要がある。
- 子どもが意欲的に追究したくなる授業を目指すため、地域素材を活用した教材開発に努め、その有効な提示方法を研究する。
- 小・中学校の校種間連携を一層図り、一貫した指導計画や授業づくりを行う。